

ICT導入による業務改善 に向けた取り組み

～導入後に変わった事・わかった事～

社会福祉法人 大三島育徳会

特別養護老人ホーム 博水の郷

岩永 真祐・佐藤 大介・岡野谷 智子



社会福祉法人大三島育徳会の紹介



社会福祉法人
大三島育徳会

大三島の『大』の文字をデザイン化、
『丸』は3つの島をイメージしています

- 『青』 空と清流の流れ
- 『赤』 情熱とぬくもり
- 『黄』 希望とあかるさ
- 『緑』 安心とやすらぎ

～地域に根差した社会福祉～

人間関係が希薄になったといわれる現代社会において、地域のなかで住民同士が手を携えて安心して暮らすことの大切さを重要視し、この多摩川において地域福祉の拠点となるべく社会福祉法人大三島育徳会を設立しました。



二子玉川を中心とした地区に
10拠点16事業所を展開している

特別養護老人ホーム 博水の郷

～博水の郷理念～

「あなたらしい生活と生き方を支援します。」

～活動方針～

「目くばり」・「気くばり」・「心くばり」

- あらゆる可能性を考慮し・予知し、先回りして事故防止する「目くばり」を欠かしません。
- 利用者の行動などについて、常に関心を持ち「気くばり」につとめます。
- 利用者の身になって「心くばり」を致します。

本日のお話

1. ICT導入の経緯

2. 現在使用中の見守り機器の活用事例

3. 導入後の成果

4. 導入後に見えてきた課題

1. ICT導入の経緯

【現在の課題】

- **館内のネットワーク環境の問題**
- **介護記録ソフトについて**
- **リスク(事故)の軽減**

1. ICT導入の経緯

【現在の課題】

導入前(平成29年度)の事故件数

転倒・転落

36件(骨折3件)

誤薬

15件(人まちがい1件)

そこで・・・

「骨折」「誤薬」「残業」の3つを最優先課題として

- 『骨折ゼロ』
- 『誤薬ゼロ』
- 『職員の記録業務による残業時間ゼロ』

2.現在使用中の見守り機器の活用事例

- **見守り支援機器一式**
- **記録システム・介護保険請求ソフト**
- **インカムシステム**
- **服薬支援システム**
- **モバイル端末**

見守り支援機器一式

見守り支援機器一式



設置場所(居室)

2F...211、212、213
226、227、228

→ 3F...310、311、312
326、327、静養室

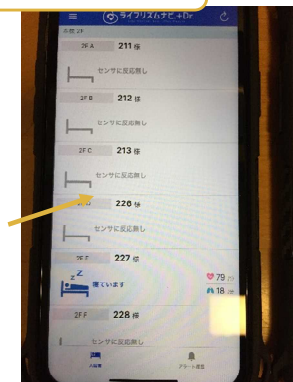
4F...407、408、415
416、417

合計...17セット

PC画面



携帯端末画面



PC・携帯端末 アプリインストール

→ PC...14台

モバイル端末...10台

見守りセンサーの導入



非接触センサーで健康を見守り カメラを使わずプライバシーを確保



各種センサーから取得したデータを専門クリニックへ。

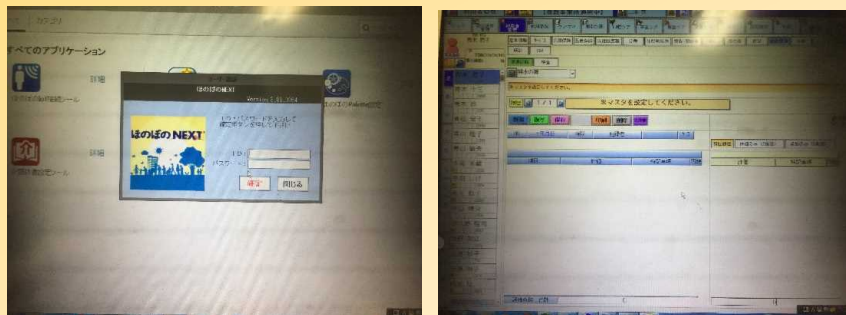
専門クリニックで解析し、健康アドバイスとレポートを作成します。異常時にはリアルタイムでお知らせ。

ご本人やご家族、ご指定の警備会社へお知らせ。

menu			ライフリズムナビ.+Dr. Life Rhythm Nav+ Plus Doctor		
本棟 2F					
2F A	211 様	センサに反応無し	2F B	212 様	センサに反応無し
2F D	226 様	センサに反応無し	2F E	227 様	寝ています 97 /分 16 /分
			2F F	228 様	7/16 17:59 ベッド上で動いています 未読1
本棟 3F					
3F A	310 様	センサに反応無し	3F B	311 様	センサに反応無し
3F D	326 様	センサに反応無し	3F E	327 様	センサに反応無し
			3F F	静養室 様	ログアの接続状態を確認して下さい
本棟 4F					
4F A	407 様	寝ています 47 /分 24 /分	4F B	408 様	センサに反応無し
4F D	416 様	ログアの接続状態を確認して下さい	4F E	417 様	7/16 18:41 離床しました 未読3

記録システム・介護保険請求ソフト

PC画面



ライセンスPC

PC

1F...7台

2F...9台

3F...5台

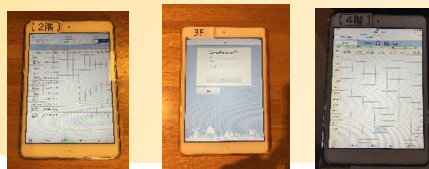
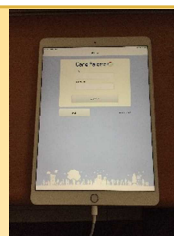
4F...3台

合計...24台

端末画面



端末画面



ライセンスiPhone + iPad

モバイル端末...10台

2F...4台 3F...4台

4F...2台

タブレット端末1台

1F(併設通所)...1台

タブレット端末(既存)...3台

3F...3台

合計...14台

介護記録ソフトの変更

- 記録の一元化
多職種の情報共有
- 集計作業は自動で出来る
- 携帯、タブレット端末
で記録の入力可
- 請求ソフトも同じソフトで可能
情報入力が一度で済むようになった



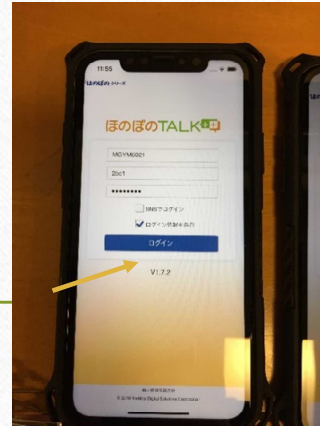
場所を選ばず入力できる

1ケアごと忘れる前に記録できる

リアルタイムでケア実施状況が共有できる

インカムシステム

PC・端末画面



アプリインストール
PC・携帯端末

PC

2F...1台

モバイル端末

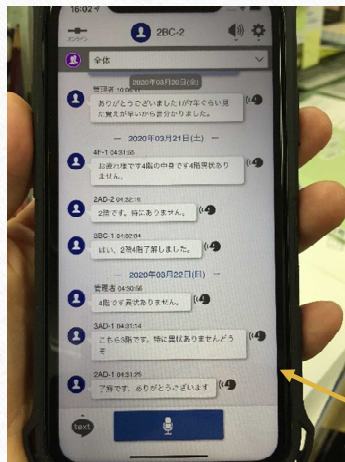
2F(特養)...4台

3F(特養)...4台

4F(ショート)...2台

合計...10台

インカム使用イメージ



イヤホン



ピンマイク

設置場所

イヤホン+ピンマイクセット

2F(特養)...4台

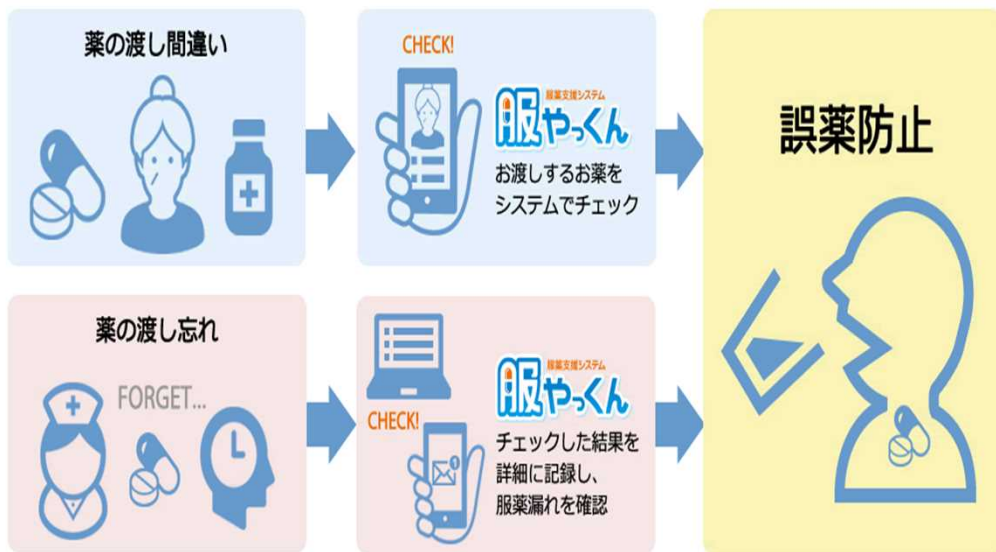
3F(特養)...4台

4F(ショート)...2台

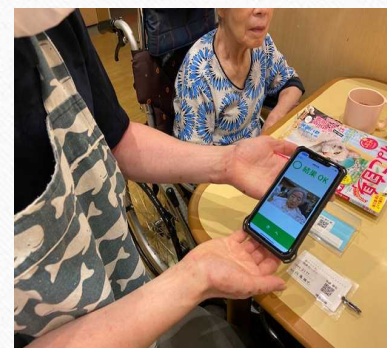
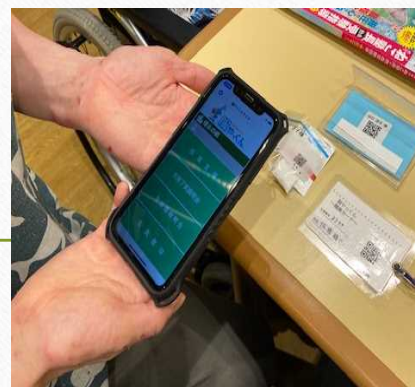
合計...10セット

服薬支援システム

2つの機能の機能で誤薬防止



誤薬の主な原因となる「渡し間違い」と「渡し忘れ」を防ぐことに力を入れ、機能もこの部分に集約しております。



服薬完了！

モバイル端末



設置場所(居室)

2F(特養)

従来型...レッド 2台

ユニット型...ホワイト 2台



3F(特養)

従来型...ブラック 2台

ユニット型...イエロー 2台

4F(ショート)...ブルー 2台

合計...10台

2. 現在使用中の見守り機器の活用事例

【導入して良かったこと NO.1】

①モバイル端末の記録システム

- ・ モバイル(携帯)端末があればどこでも記録などを入力でき、確認が取れる事
- ・ PCメンテナンス時には、代わりに記録が入力確認ができる

②インカム

- ・ 各フロア、看護師との連絡が取り易くなった
- ・ 内線親機までいく、看護師を探す手間が省け、
その間のリスク回避や時間短縮にもつながっている

2. 現在使用中の見守り機器の活用事例

【導入して良かったこと NO.2】

③服薬支援システム

- 誤薬事故の減少につながった。顔写真も登録できるため、しっかりと確認をとってから介助が出来る。
- 職員が手薄になる起床時や就寝時など他のユニットの職員に確認を取ることなく済み、誤薬防止にもなる。

④モバイル端末

- 写真や動画に残すことができ、職員間で共有が出来る。
- リハビリのやり方や、座位などのポジショニングをPTにレクチャーを受けた際に文章や口頭での伝達共有よりわかりやすい。
- 居室のレイアウトの位置も画像を残すことで共有しやすくなった。

3. 導入後の成果

平成29年度（導入前の事故件数）

転倒・転落

37件(骨折3件)

誤薬

15件(ひと間違い1件)



令和4年度（導入後の事故件数）

転倒・転落

16件(骨折2件)

誤薬

11件(ひと間違い0件)

4. 導入後に見えてきた課題

**全てのICTにおいて重要な事は、
使用する場所のネット環境が整っていることが
必須条件ということ**

4. 導入後に見えてきた課題

- ・見守りセンサー・・・反応に少しタイムラグがある。(あくまでの睡眠センサー)
ベッドマットによっては反応に誤差が生じるときもある。
- ・携帯端末記録ソフト・・・印刷ができない。端末が小さく見えにくいと感じる職員も
タブレット端末の併用が望まれる。
- ・インカムシステム・・・居室内などの通信環境によって、つながらないケース
ができてしまった。
- ・モバイル端末・・・導入時に設定をしてなかったため音声通話やカメラ通話ができない。
できると尚、機能の幅が広がるとの意見も。

終わりに

これからは
人間とデジタル技術の共存の時代

ご清聴ありがとうございました